様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2022
課題番号：１５Ｋ０３３１０

研究課題名（和文）トルコのEU加盟問題の今日的課題とヨーロッパ国際関係をめぐる研究

研究課題名（英文）Current Issues of Turkey's Accession to the EU and European International Relations

研究代表者
東野　篤子（Higashino, Atsuko）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：６０４０５４８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：トルコのEU加盟をめぐる諸問題について、国際政治学の観点から多角的に研究を行った。トルコのEC加盟に関する関心表明からEC加盟申請、EU加盟交渉開始とその一部凍結等の重要な出来事に時系列的に整理を行った。そのうえで(a)その後のEU・トルコ関係の全体的な推移、（b）EU・トルコ関係に影響を与えた、あるいはEU・トルコ関係の重要な争点となった出来事（主にEU加盟問題、トルコにおけるクーデター未遂とその後のエルドアン政権の強権化、欧州難民危機と2016年のEU・トルコ難民協定、EU・トルコ関税同盟のアップグレード問題等）について論文執筆および学会報告、メディア発信を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現段階の我が国の研究では、EUの政体や対外政策に関する研究、そしてトルコの内政、経済、外交に関する研究はそれぞれ進展してきている。しかし、EUとトルコの関係に関する研究は必ずしも質・量的に十分とは言いがたい側面があった。
本研究課題が主な研究対象時期として設定していた2010年代半ば以降から現在に至るまで、欧州難民危機やロシアによるウクライナ侵略など、本来であれば安定的なユーラシア秩序構築のためにEUとトルコの協働関係が大いに期待出来たはずの領域において、両者間の齟齬が多々見られた。本研究課題では、こうした複雑な欧州秩序への視座を提供することを可能とした。

研究成果の概要（英文）：I analysed the issues surrounding Turkey's accession to the EU from IR perspective. I made chronological analysis concerning the key events of the topic, from Turkey's expression of interest in EC membership to its application for EC membership, the start of EU accession negotiations and the partial freezing of those negotiations. It then analysed (a) the overall evolution of EU-Turkey relations since then, (b) the events that affected or became key contentious issues in EU-Turkey relations (e.g., the EU accession process, the attempted coup in Turkey and the subsequent authoritalisation of the Erdogan government, the refugee crisis and the 2016 EU-Turkey Refugee Agreement, the issue of upgrading the EU-Turkey Customs Union, etc.), by writing book chapters, articles, conference reports and media dissemination.

研究分野：国際関係論

キーワード：トルコ　EU　加盟　拡大　ロシア　ウクライナ　難民

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究課題申請時の 2014 年における EU・トルコ関係の状況は以下の通りであった。

- 本研究課題申請より約 10 年前の 2005 年末にようやく正式開始で合意した加盟交渉が、トルコによるキプロスの国家承認拒否を受けて 2006 年末には一時凍結されてしまった。
- 申請時の 2014 年には、この加盟交渉一時凍結の影響が依然として尾を引いている状況であった。凍結されていた政策領域以外の加盟交渉も細々としか進まず、短・中期的に EU 加盟が全く期待出来ないという状況であった。状況打開のためにはトルコがキプロス国家承認問題をめぐって妥協するしかなかったが、トルコのエルドアン政権にはその意志はなく、また EU 側のトルコに対する認識も悪化の一途を辿っていた。
- また申請直前の時期においては、トルコのエルドアン大統領だけではなく、ハンガリーのオルバン首相、ロシアのプーチン大統領、セルビアのブチッチ大統領など、ユーラシアの多くの政治指導者らが強権化し、いわゆる「民主主義の逆行」が顕著になり始めた時期でもあった。「民主主義の逆行」がトルコに留まらず、他の欧州諸国（とりわけ中・東欧諸国）にも及んでいたことは、ユーラシア全体の政治力学にも大きな影響を与えることが想定されていた。このため、EU・トルコ関係の分析もこのユーラシアレベルで顕著となっていた「民主主義の逆行」を前提とする必要があった。
- 同時に、欧州におけるテロとの戦いや（研究課題申請以降により大きな問題として可視化されることになる）欧州への難民流入など、EU とトルコとの間には協力すべき具体的案件も多く残されていた。すなわち本研究課題申請時においては、EU とトルコとの双方が「加盟プロセスの停滞」と「個別具体的な問題をめぐる EU・トルコ協力の必要性」という問題点を認識しつつ、その双方において成果を十分に上げることが出来ないという膠着状況にあった。
- EU・トルコ関係を他の文脈から切り離して観察するのではなく、より大きなユーラシアの国際関係の文脈の中に置いて分析する必要があるという点が、本研究課題をめぐる重要な問題意識の一つであった。その観点からすれば、(a)2014 年のロシアによるクリミアの違法な占領とその後のウクライナ東部における戦闘の激化、(b)トルコと中国、また中・東欧諸国と中国との急速な経済関係の強化とそれがユーラシア国際政治に与える影響、(c)トルコとロシアの関係の悪化および改善のサイクルの可視化、など、本研究課題申請前の状況は大きく動いていた。
- 本研究課題申請前の 2013 年には、日・EU 経済連携協定の交渉が開始されていた。トルコは EU との間で関税協定を締結していることから、日・トルコ間でも経済連携協定が自動的に必要となり、2014 年に同協定交渉開始が決定されていた。このことから EU・トルコ関係の推移は、日本と EU、日本とトルコとの関係にとっても重要関心事項となった。このような背景を元に本研究課題の申請を行った。

２．研究の目的

- 上記 1. の状況を踏まえ、本研究は EC/EU とトルコとの関係を歴史的観点から総括した上で、本研究課題申請時以降の EU・トルコ関係に関する諸課題ごとに分析を行い、現在の EU・トルコ関係の状況を多面的・多角的にとらえることを目的とした。
- 上記 1. で記述したように、申請当時においては EU とトルコとの間で加盟交渉が進展することはほぼ期待出来ない状況であったため、加盟交渉が頓挫に近い状況に陥った経緯を時系列的に整理した後、加盟交渉「以外」の EU・トルコ関係を巡る諸問題（とくに欧州難民危機への EU・トルコの協力の可能性や、EU・トルコ関税同盟アップグレード問題等）等の課題に力点を置いて分析を行うことを目的とした。
- EU・トルコ関係に影響を与える諸要因（トルコにおける「民主主義の逆行」および中・東欧などのトルコ以外の諸国における「民主主義の逆行」等）と、それらに対する欧州の言説と認識についても分析を行い、関連諸国の政治体制上の変動と EU・トルコ関係への影響を分析すること目的とした。
- EU・トルコ関係を他の文脈から切り離して観察するのではなく、より大きなユーラシアの国際関係の文脈の中に置いて分析するため、(a)2014 年以降のウクライナ情勢がロシア、トルコ、EU の諸関係に与えた影響、(b)経済アクターとしての中国の台頭と、トルコ・中国関係、中・東欧諸国・中国関係の展開、(c)トルコ・ロシア関係の推移、等の自称に焦点を当て、EU・トルコ関係を複合的な視点から捉えることを目的とした。
- 申請当時、関係を深めようとしていた日本と EU、そして日本とトルコとの関係を理解するにあたり、経緯と現状、将来展望を提示することも目的とした。
- 最後に、本研究課題採択後に生じた極めて重要な展開として、本研究課題を延長して実施

していた 2022 年 2 月 24 日に

３．研究の方法

本研究申請時の想定は、①EU 諸機関および EU 加盟国、トルコの公式・非公式政策文書を収集・分析、②EU 諸機関および EU 加盟国、トルコの政策形成従事者、外交担当者、オピニオンリーダーなどの公開言説（公的なスピーチや寄稿文等）を収集、分析、③EU 諸機関および EU 加盟国、トルコの政策形成従事者、外交担当者、オピニオンリーダーなどへのインタビュー、の 3 つの柱で研究を実施することを想定していた。しかし、トルコ国内における政情の不安定化や 2020 年以降のコロナ禍により、上記③はほぼ実施不能となった（ただし、コロナ禍以前に EU 諸機関および欧州諸国におけるインタビューは実施することが出来た）。このため上記①および②を重点的に実施した。

理論的枠組みとしては、言説と認識の変容をトレースするため、コンストラクティヴィズムおよび言説分析を主に用いたが、安全保障に関するコペンハーゲン学派の Regional Security Complex 概念も使用し、先端国家としてのトルコの特殊性について分析する試みを日・EU フォーラムなどの機会に発表し、同枠組を用いる欧州の専門家からフィードバックを得た。

４．研究成果

本研究課題採択後、EU・トルコ関係を巡る状況は刻々と変化した。本研究では、EC/EU 関係の歴史的経緯を踏まえた上で、その時々の重要課題について分析を行った。状況がめまぐるしく変化したこともあり、即時的分析に重点を置き、本研究課題の成果としてタイムリーにメディア等を通じて発信することを心がけた。主に、

① 本研究課題採択直後に深刻化した欧州難民危機と、それに伴う「EU・トルコ難民協定」の内容、含意、履行状況とそこで新たに生じたトルコと EU の齟齬
② 上記①が EU・トルコ加盟交渉に与えた影響
③ 2016 年のトルコにおけるクーデター未遂とその後のエルドアン政権の強権化、トルコにおける「民主主義の逆行」現象とそれに対する EU の対応（付加的にハンガリー、ポーランド、セルビアなどにおける「民主主義の逆行」および「法の支配への挑戦」に関する分析と、欧州全体における民主主義の動揺の状況の分析）
④ コロナ禍における EU・トルコ関係
⑤ EU・トルコの関税同盟アップグレード問題とドイツなどの一部欧州諸国の対応
⑥ 中国・トルコ関係の推移と展開
⑦ 中・東欧諸国と中国との関係構築（主に「16+1」等といった経済的枠組み）を巡る展開と、中国がトルコ・欧州関係に与えうる影響
⑧ 日・EU・トルコの「戦略的三角形」に関する分析（日・EU 経済連携協定、EU・トルコ関税同盟、日・トルコ経済連携協定の現状と相互関係）およびそれが日本外交に与える影響、
⑨ 2014 年のクリミア占領以降のロシア・トルコ・EU の関係
⑩ 2022 年のロシアによるウクライナ侵攻を巡るトルコと EU の対応、
⑪ ロシアによるウクライナ侵攻の帰結として生じたトルコの対外関係の変容（トルコ民間企業による対ウクライナ協力・支援、トルコの「仲介外交」とそれに対する EU の受け止め、トルコの「穀物合意」成立に向けた役割と国会におけるトルコの戦略的な重要性の見直し）
⑫ 2023 年トルコ大統領選挙をめぐる諸問題と EU 諸国の反応

などについて、日本語論文、英語査読論文、英語での研究会・学会での発信を行った。毎年度の実績報告書に書ききれなかった業績については、
https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000275
に掲載している。

なお、本研究課題採択後の 2015 年中に、本研究課題をベースとして「トルコの EU 加盟問題の今日的課題とヨーロッパ国際関係をめぐる研究（国際共同研究強化）」が採択されたため、2017 年 1 月から 12 月までベルギーのブリュッセル自由大学ヨーロッパ研究所で在外研究を実施した。その際に、トルコの周辺諸国、EU 諸機構や EU 加盟諸国の大使館などで聞き取り調査を実施することが出来た。

本研究課題で想定していながら達成できなかった重要な目標として、トルコ国内において政治家、外務省関係者、国防省関係者、大学・シンクタンクの研究員、オピニオンリーダー等に直接インタビューを行い、現段階でトルコ側が EU および欧州全体との関係をどのように考えているのか、その認識はいつどのような状況で変化したのかを調査することがあった。しかし、2

本研究課題申請時に想定し、研究協力の内諾を取り付けていた研究パートナーたちの多くが、2016 年後のトルコ国内の強権化に伴い、大学やシンクタンクの職を追われてトルコ国外に転居せざるを得なかったり、自身の安全のために外国人研究者である私との接触を制限しなければならない状況に陥った。このため、トルコ国内に赴いて直接インタビューするだけではなく、Zoom 等を用いた遠隔インタビューにも慎重にならざるを得ない状況であった。このため、トルコ国内の状況については、公開済情報および米欧諸国で発表される論考に依拠しながら分析を行わざるを得なかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 東野篤子	４．巻 1268
２．論文標題 なぜEU拡大は進まないのか	５．発行年 2022年
３．雑誌名 三田評論	６．最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Atsuko HIgashino	４．巻 41
２．論文標題 Japan and Central and Eastern European Countries (CEECs)	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Policy Briefs	６．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2870/033876	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 東野篤子	４．巻 195
２．論文標題 EUと中国、中・東欧と中国 ： 期待から失望、警戒へ	５．発行年 2021年
３．雑誌名 CISTEC journal	６．最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Higashino Atsuko	４．巻 10
２．論文標題 Relations between the EU, Turkey, and Japan: dissonances in the strategic triangle	５．発行年 2021年
３．雑誌名 F1000Research	６．最初と最後の頁 171-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12688/f1000research.51085.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 63
2．論文標題 EU共通債合意　再結束への第一歩	5．発行年 2020年
3．雑誌名 外交	6．最初と最後の頁 86－91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 23417
2．論文標題 ヨーロッパ・中国関係の変容？　COVID-19がもたらす影響	5．発行年 2020年
3．雑誌名 シノドス	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 27（1）
2．論文標題 ヨーロッパと一帯一路　ー　脅威認識・落胆・期待の共存	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際安全保障	6．最初と最後の頁 32－51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 1043
2．論文標題 EUの対ウクライナ政策　ー　近隣諸国政策の成立からゼレンスキー政権の発足まで	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6．最初と最後の頁 14－27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 1034
2．論文標題 EUの東方パートナーシップ(EaP)政策の展開	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6．最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 259
2．論文標題 中欧における「法の支配の危機」――EU内部に深まる亀裂	5．発行年 2018年
3．雑誌名 αシノドス	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野篤子	4．巻 256
2．論文標題 EU・トルコ関係の現在	5．発行年 2017年
3．雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6．最初と最後の頁 38-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Atsuko Higashino	4．巻 14(4)
2．論文標題 A Partnership Postponed? Japan-EU Cooperation in Conflict Resolution in East Asia	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Asia-Europe Journal	6．最初と最後の頁 435-447
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10308-016-0455-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 東野篤子	４．巻 101
２．論文標題 EU・トルコ関係の現在ーー修復は可能か？	５．発行年 2016年
３．雑誌名 EUSIメールマガジン	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 東野篤子	４．巻 641
２．論文標題 ウクライナ危機とEU－ミンスクII合意をめぐるEUと加盟諸国の外交	５．発行年 2015年
３．雑誌名 国際問題	６．最初と最後の頁 27－38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　13件／うち国際学会　14件）

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 The concept of Regional Security Complex (RSC) and the Russia-Ukraine war
３．学会等名 Japan-EU Forum（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 V4+Japan: Potential Issues and Challenges
３．学会等名 「V4＋日本」セミナー：「中欧の将来と日本が果たす役割」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Lublin Triangle: How to Build Effective Relations with Asia and Japan? A Japanese Perspective
３．学会等名 2nd International Forum: UKRAINE AND JAPAN IN REGIONAL AND GLOBAL CONTEXT/（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 The BRI in Europe - a View from JapanHigashino Atsuko
３．学会等名 CHOICE - Japan Dialogue, "China Risk and China Opportunity for a Free and Open Indo-Pacific"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 “The EU-China-Taiwan Relationship from a Japanese Perspective,”
３．学会等名 The Europe-Japan Struggle to Preserve a Rules-based International Order（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Japan and the European Union: Shared Interests and Cooperation
３．学会等名 Japan and the European Union: Shared Interests and Cooperation（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 コロナ後の EU における民主化の後退と権威主義化に関わる諸問題
３．学会等名 「民主化の後退」研究会2020年度第1回会合
４．発表年 2020年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 The UK and Japan towards China: Any room for cooperation/coordination?
３．学会等名 Post(?)-Brexit: UK-Japan Relations workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 The concept of Regional Security Complex (RSC) and the EU connectivity strategy
３．学会等名 EU-Japan Round-table Series（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Revisiting the Concept of the "insulator state": EU-Turkey relationship from a Japanese perspective
３．学会等名 EU-Japan Forum 2019（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 国際関係の中のジョージア：EU・NATOとの関係を中心に
３．学会等名 「ジョージアの主権回復及び初の共和国宣言100周年」記念特別セミナー（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 東方パートナーシップ（EaP）の10年
３．学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会　国際統合分科会C-4
４．発表年 2018年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 コペンハーゲン学派による「絶縁体国家」トルコ概念の再検討
３．学会等名 「国際政治学と地域研究の共振」研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 『国際政治』にみるヨーロッパ研究の動向
３．学会等名 日本国際政治学会制度整備・自己点検タスクフォース
４．発表年 2018年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Relations between the EU, Turkey and Japan: Dissonances in the strategic triangle?
３．学会等名 18th ‘ European Union in International Affairs ’ (EUIA) Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 EU・中東関係とRegional Security Complex 分析枠組みの再検討
３．学会等名 『国際政治学と地域研究の共振』研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Turkey-EU-Japan relationship in a changing international environment
３．学会等名 11th Pan-European Conference on International Relations（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 A Global Strategy for the European Union
３．学会等名 Annual Serbian-Japanese Scientific Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 東野篤子
２．発表標題 国際規範のコンストラクティヴィズム分析
３．学会等名 グローバル・ガバナンス学会第8回研究大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 Normative Politics in the European Union
３．学会等名 Normative Politics in the European Union（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Atsuko Higashino
２．発表標題 EU-Turkey relationship in a new phase? : Implications of the Syrian Crisis
３．学会等名 10th Pan European Conference on International Relations, EISA（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計9件

１．著者名 森井裕一編（東野篤子分担）	４．発行年 2022年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 23
３．書名 ヨーロッパの政治経済・入門［新版］（担当箇所「EUを取り巻く地域」）	

１．著者名 岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一編著（東野篤子分担）	４．発行年 2023年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 6
３．書名 ハンドブックヨーロッパ外交史　ウェストファリアからブレクジットまで（担当箇所「EUの拡大と変容ー冷戦後ヨーロッパの秩序再編成」）	

１．著者名 広瀬　佳一	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 268
３．書名 現代ヨーロッパの安全保障	

１．著者名 坂井　一成、八十田　博人	４．発行年 2020年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 240
３．書名 よくわかるＥＵ政治	

１．著者名 益田　実・山本　健　編著　東野篤子（第8章）	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 392
３．書名 欧州統合史	

１．著者名 服部　倫卓・原田　義也　編著　東野篤子（第62章）	４．発行年 2018年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 416
３．書名 ウクライナを知るための65章	

１．著者名 川名　晋史 編著　東野篤子（第9章）	４．発行年 2019年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 296
３．書名 共振する国際政治学と地域研究	

１．著者名 Atsuko Higashino	４．発行年 2017年
２．出版社 Institute for International Politics and Economics	５．総ページ数 128
３．書名 "From the European Security Strategy to the New Global Strategy of the EU: Implication for the Western Balkans", in Social and Economic Problems and Challenges in the Contemporary World	

１．著者名 東野篤子（臼井陽一郎編）	４．発行年 2015年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 321
３．書名 EUの規範政治　グローバルヨーロッパの理想と現実	

〔産業財産権〕

〔その他〕

EU・中国・台湾関係の新展開【前編】
https://www.jiia.or.jp/column/europe-fy2021-02.html
EU・中国・台湾関係の新展開【中編】
https://www.jiia.or.jp/column/europe-fy2021-03.html
EU・中国・台湾関係の新展開【後編】
https://www.jiia.or.jp/column/europe-fy2021-04.html
ヨーロッパ・中国関係の変容？――COVID-19がもたらす影響
https://synodos.jp/international/23417
Fondation pour la recherche strategique
https://www.frstrategie.org/en/events/2021-02-05-japan-and-european-union-shared-interests-and-cooperation

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関